

概要版

みやぎ こども幸福計画

(令和7年度～令和11年度)



みやぎ
宮城県

みやぎ こども幸福計画 (令和7年度～令和11年度) の概要

みやぎ幸福計画ってなに？ (計画策定の趣旨)

みやぎの未来を創っていくこどもを健康に育てるため、そしてこどもを育てやすい社会をつくるために、大事にすることや必要なことを書いた計画です。

誰のための計画なの？ (計画の対象)

宮城県に住むすべてのこども・若者や周りのおとなための計画です。

いつからいつまでの計画なの？ (計画期間)

令和7年度から令和11年度までの5年間の計画です。

計画の目指すものはなに？ (基本理念)

「みやぎこども幸福計画」が目指すのは、

●誰もが安心してこどもを生み育てられる社会

●すべてのこどもがどんな環境で生まれ育っても、愛情に包まれ、夢と

希望を持つことができる社会

●すべてのこどもが健やかに成長でき、将来にわたって幸せ (ウェルビー
ング) に暮らすことができる社会

です。

コラム ウェルビーイングってなんだろう？

ウェルビーイングはもともと英語の専門用語です。国や宮城県では、ウェル
ビーイングの意味を「こころもからだも元気で、まわりの人ともいい関係で、
今も将来も幸せな状態であること」だと考えています。

たとえば、家族や友だちと安全に安心して毎日すごすことや、将来の夢や希
望を持つこと、じぶんの学校やまちを良いものにしていきたいと思うことも、
ウェルビーイングの一部です。

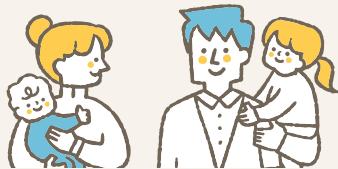


どんなことを大切にするの？（7つの視点）

7つの視点

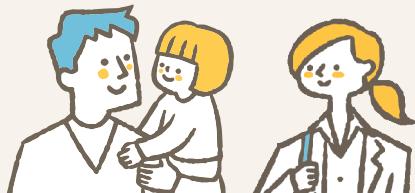
宮城県は、次の7つのことを
大切にしながら取組を進めます。

② 子育てをするすべての人を応援



子育てをするすべての人が安心して子育てできる
よう、子どもの出産から成長までサポートを受けら
れる仕組みをつくり、社会全体で子育てをする人を
支える取組を進めます。

④ 仕事と生活のどちらも大切に



子育てをする人が安心して仕事をできる社会を自
指して、男女が協力して仕事と生活が両立できる仕
組みを考えながら取組を進めます。

⑥ 結婚などへのひとりひとりの考え方を大切に



結婚や子育てには人それぞれの希望があります。
みんなの考え方を大切にし、希望がかなうように工夫
しながら、取組を進めます。

① すべてのこども・若者の幸せ



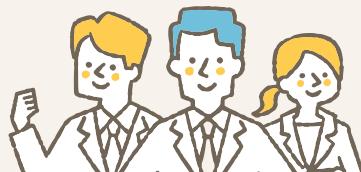
すべてのこどもが大切にされ、すこやかに成長で
きるよう、ひとりひとりの環境を考えながら、こど
もや若者の幸せを一番に考えて取組を進めます。

③ こども・若者・子育てをする人と一緒に



こどもや若者、子育てをする人が安心して意見を
言い、社会に参加できる機会を作り、話し合いなが
ら取組を進めます。

⑤ 地域全体でこどもや子育てを応援



国や地域、学校、会社やさまざまな団体が協力し
て、すべてのこどもと家族を地域全体でサポートし
ながら、取組を進めます。

⑦ 東日本大震災で大変な思いをした こども・若者のこころのケア



震災で心に傷を負ったこどもや若者、その家族を
助けるため、長く丁寧に、その人たちの成長に合っ
たサポートを続けます。

もっと詳しい内容を知りたい人は次のページへ

どんな取組をするの？

宮城県が「みやぎこども幸福計画」で取り組む主なことを、3つに分けて説明します。

3つの取組

1 すべての年齢のこども・若者のために取り組むこと



- ・こどもや若者が社会の活動に参加できるチャンスを作ったり、県やこども施策に自分の意見を言えたりする場所を用意していきます。
- ・こどもが生活習慣を身に付けられるようにお知らせする活動をしたり、「食育」を学ぶ活動や、歯と口の健康を守る大切さを伝えることに力を入れたりします。
- ・安全・安心な遊び場づくりや、子育てをする家族が住む場所のサポートなど、「こどもまんなかまちづくり」を進めます。
- ・お金が足りず生活や進学に困っているこどもやその家族をサポートする仕組みづくりや居場所づくりなどを行います。
- ・障がいのあるこどもや特別な医療のお世話が必要なこどもを支えて、こどもと家族が身近な地域で暮らせるようにします。
- ・こどもが親やお世話をする人からたたかれたり、ひどい言葉を言われたりして、体や心を傷つけられることがないように、さまざまな団体と協力して、前もって防いでいきます。
- ・インターネットを安心して利用できるようにしたり、犯罪、事故、地震などに備えたり、「闇バイト」等の犯罪に加わらせないようにすることで、こどもや若者の安全や安心を守っていきます。
- ・東日本大震災で心に傷を負ったこどもや若者、その家族を手助けし、希望する進路に進めるようにしたり、心の傷を治すためのサポートを行ったりしていきます。



2 こども・若者の成長に合わせて取り組むこと

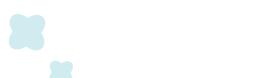
6才くらいまで

- ・こどもが生まれる前や生まれた後の医療の仕組みをしっかり整えます。
- ・こどもが生まれる前後のお母さん・お父さんが心や体を休めるためのサポートを行います。
- ・幼稚園や保育園、こども園などの場所や、そこで働く人たちが足りないことがないようにします。



6才から18才くらいまで

- ・学校でこどもが体力や運動する能力を身に付けるために、学校の先生たちの教える力をもっと高めていきます。



・こどもが何かを学びたいという気持ちを高めることや、学校でのタブレットの活用を進めます。

・障がいがある・ないにかかわらず、希望するこどもが学校で一緒に勉強できるように工夫をしていきます。

・放課後児童クラブやさまざまな地域の居場所など、こどもが放課後や休みの日にほっとできる・安心できる場所づくりを進めます。

・こどもが病気になったときやケガをしたときにすぐに治療を受けられるような仕組みをしっかり作ります。

・自分や他の人の体や心の成長について知ったり、悩みを相談したりできるチャンスを増やします。

・こどもが自分の将来について夢や目標を持って、さまざまにチャレンジすることをサポートします。

・社会の一員になること、将来の生き方や、親になることなどについて考え方を広めるサポートを行います。

・いじめからこどもを守るため、学校がいちはやくいじめに気付けるようにし、安心して学べる場所づくりを行います。

・登校しないこども、登校したくてもできないこどもとその家族が、学校の中や外で相談ができたり、こどもが教育を受けたりすることができる仕組みづくりを行います。

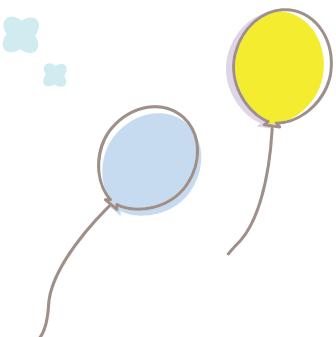
・高校を途中でやめた人がもう一度勉強するためのサポートを行います。

18才以上

・高校を卒業した後も勉強を続けるためのお金のサポートなどを行います。

・仕事を始めるためのサポートや、男性だけでなく女性も仕事やまちで活躍できる仕組みづくりを進めます。

・結婚したいと思う人たちのために、出会いのチャンスや情報を提供します。



3 子育てをする人たちへのサポートのために取り組むこと

・お金が不足していることを理由にこどもを持つことをあきらめないように、サポートします。

・子育てをする人たちが一人ぼっちにならないように、社会全体で助け合う雰囲気づくりを行います。

・男性が子育てのために仕事を休めるなど、男女が仕事と子育てを両立しやすい社会づくりを進めます。

・ひとり親家庭のために、相談しやすい仕組みづくりや仕事を見つける手助け、お金のサポートなどを行います。

わかもの い けん き こども・若者のみなさんから意見を聞きました

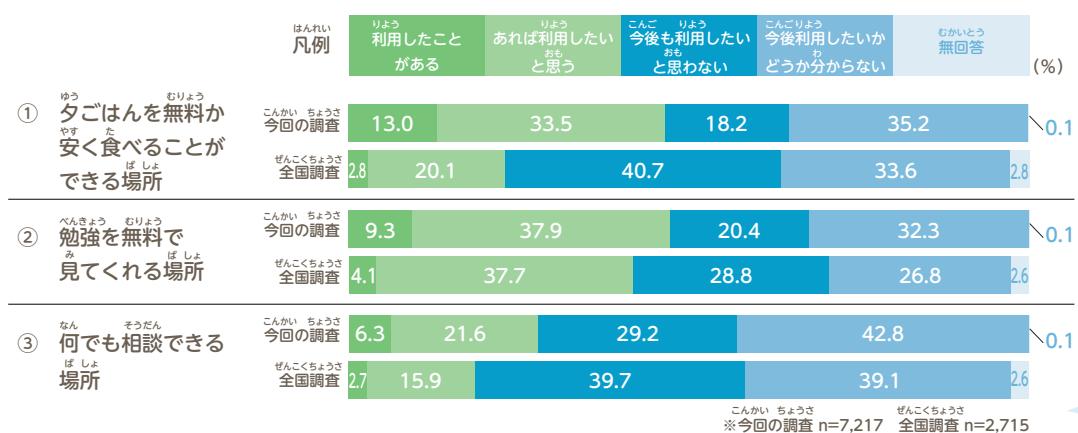
みやぎけん ちょうさ 宮城県こどもアンケート調査

調査の概要

| | | | | |
|--|------------------------------------|---|---------------------------------------|-------------------------------------|
| 「こども幸福計画」を作るために、県内の中学2年生を対象にアンケート調査を行いました。集まった回答は全国調査と比べたり、回答を組み合わせて分析しています。 | 調査の期間 令和6年7月8日から 令和6年7月26日まで | 調査の対象 県内の中学2年生と特別支援学校の中等部2年生 合計225校 19,329人 | 調査の方法 チラシを学校に配布し、インターネットや 郵便で回答 | 回答の状況 回答数7,217件 (回答した人の割合は37.3%) |
|--|------------------------------------|---|---------------------------------------|-------------------------------------|

◆居場所の利用

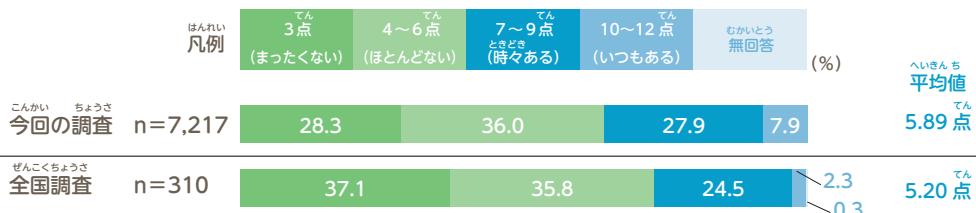
以下の①～③の場所を利用したことがあるか、利用したことがない場合、今後利用したいと思うかを聞きました。



全国調査と比べると、どの項目も「利用したことがある」人の割合が多いという結果になりました。例えば、①の質問では、いわゆる「こども食堂」を利用したのある人、利用したいと思う人が多くいることがわかります。

◆孤独感

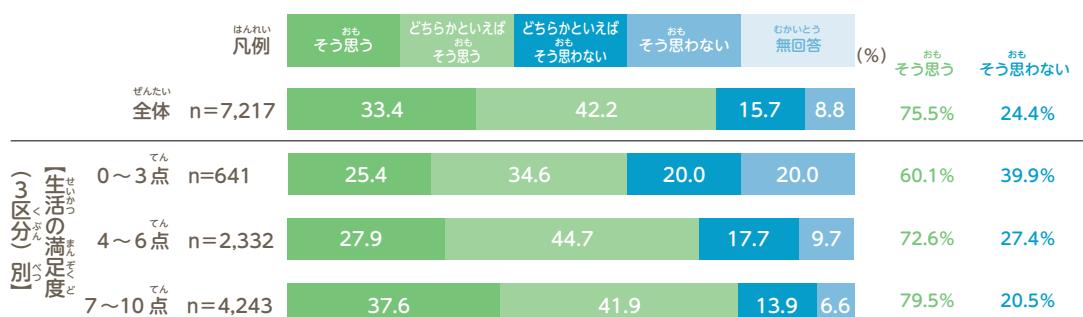
さまざまな質問の答えをもとに、孤独を感じているかどうかを点数で示しました。点数が高ければ高いほど孤独を感じていることを示しています。



県内の中学2年生は、全国調査と比べて点数が高く、より孤独を感じているという結果になりました。

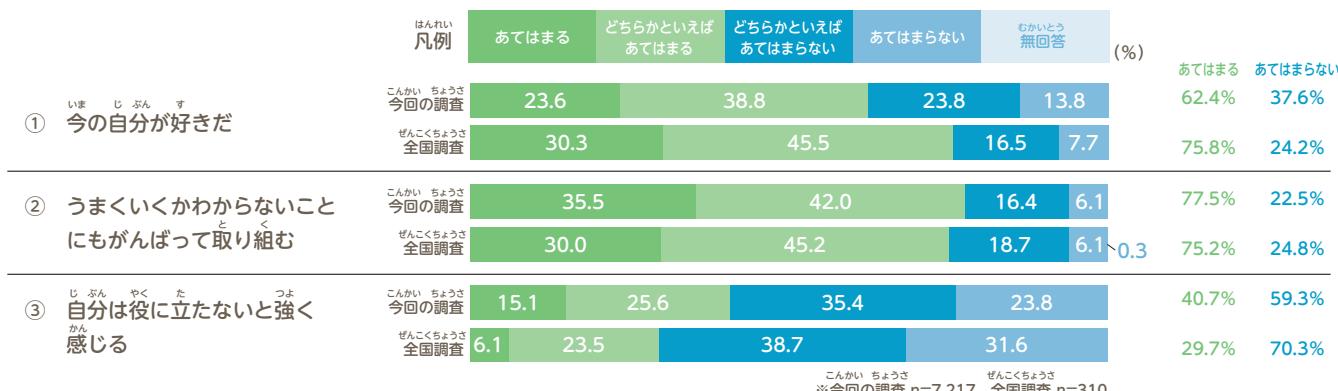
◆生活の満足度×宮城県に住み続けたいか

最近の生活にどれくらい満足しているか10点満点で聞いた結果と、「宮城県に住み続けたいか、または他の地域に移り住むことになつてもどつてきたいか」という質問の答えを組み合わせました。



◆自己認識

かいとう ひと じ しん 回答した人自身のことについて、どれくらいあてはまるかを聞きました。



全国調査と比べると、①の質問に対して「あてはまらない」と答える（自己肯定感が低い）人の割合が高いですが、「うまくいかわからないことにもがんばって取り組む」人の割合は高いことがわかります。

こんな意見がありました

【子どもの意見を聞ける場について】



子どもや大人も幸せになってほしいから、子どもの意見を聞けるような場をもう少し作ってほしいです。

いただいた意見をもとに、計画のなかの「子ども・若者の社会参画・意見反映」という項目で、宮城県の取組の進め方に次のような意味の文章を新しく加えました。

「宮城県や県内の市町村が幅広く子ども・若者の意見を聴き、その意見を活かすための取組を行ったり、その取組を支援したりします。」

【子どもの遊び場等の整備について】



子どもが気軽に遊べる場所（児童館、公園など）をもっと増やしてほしいです。

子どもが遊ぶところ、たとえば雨の日でも遊べる建物や、公園、公共の施設などは、主に市や町、村が、その地域に住んでいる人たちのことを考えて作っています。国や県は、その取組を引き続き進めていきます。

また、いただいた意見をもとに、計画のなかの「住みよいまちづくりの推進」という項目で、宮城県の取組の進め方に次のような意味の文章を新しく加えました。

「子育てをしやすい環境をととのえるため、子育てを支援するような場所を宮城県内に用意したり、市や町、村が建物を作りたいときに国のお金の支援などを受けられたりできるようにお手伝いします。」

【母子支援について】



もっと子どもを産む前の親に寄り添うようなサポートがあるといいなと思いました。特に、精神的な支えも大事にしてほしいと思いました。

これからお父さんやお母さんになる人たちが、子どもを産む前に不安になったり助けが欲しくなったりしたときに、相談にのったり気持ちを支えたりすることは、それぞれの市や町、村が行っています。宮城県は、この活動をしっかりと支援していきます。

また、計画のなかの「産前産後の支援充実・体制強化」という項目で、宮城県の取組の進め方の文章に次のように言葉を付け加えました。

「市や町、村が行う、【赤ちゃんを産む前のお母さんやお父さんへの相談に乗る手伝いや】、赤ちゃんがいるお家に行く活動、赤ちゃんの成長を調べる健康診断など、色々な機会を通して、おうちの人が困りごとがあるときに、すぐに相談できるような仕組みをもっと便利で安心なものにしていきます。」

「みやぎこども幸福計画」では、計画の内容の進み具合を確かめるために、目標を決めています。

これから約5年間に目指すこと（目標の一部）

合計特殊出生率※1

計画を作成した時の数値
【令和5年】

1.07

目標値【令和11年】

1.40

県民満足度※2

計画を作成した時の数値
【令和5年】

30.6%

目標値【令和11年】

40.0%

「自治体こども計画」※3 を作った市町村数

計画を作成した時の数値
【令和5年度】

0市町村

目標値【令和11年度】

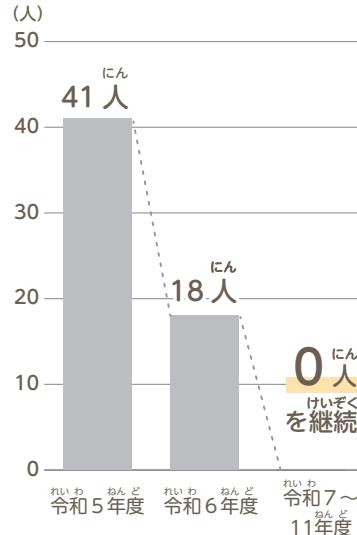
35市町村

こども食堂※4 の数

300 か所

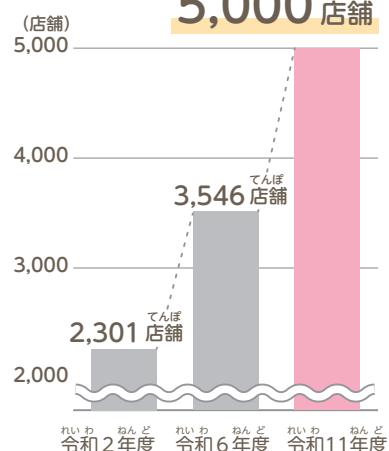


保育所等利用 待機児童数※5



みやぎ結婚応援・ 子育て支援パスポート※6 協賛店舗数

5,000 店舗



用語の説明

※1 合計特殊出生率…一人の女性が一生のうちに平均して何人のこどもを産むかを推計した数値のこと。

※2 県民満足度…宮城県が毎年実施している意識調査の中で、「子ども・子育てを社会全体で切れ目なく応援する環境をつくる」について「満足」「やや満足」と答えた人の割合。

※3 自治体こども計画…国が決めたこども施策の基本的な方針（こども大綱）をもとに、都道府県や市町村が作る計画のこと。

※4 こども食堂…こどもが一人でも食事ができ、無料か安い料金で参加できる場所や活動のこと。

※5 保育所等利用待機児童数…保育所などの施設に入りたかったのに入れなかったこどもの人数のこと。

※6 みやぎ結婚応援・子育て支援パスポート…結婚したばかりの夫婦や、18歳以下のこどものいる家庭が、協力をしてくれるお店でこの「パスポート」を見せると、いろいろなサービスなどを受けられるという仕組み。

